

第47回 日本臨床心理学会大会（大阪）へのご案内

大会委員長 佐藤 和喜雄 (NPO 法人 福祉会菩提樹)

東日本大震災と福島原発大事故により、私たちは未曾有の危機に直面しています。被災の人々は慟哭を越えて頑張り、日本中・世界中から支援が寄せられています。しかし原発事故による放射線被曝は日増しに拡がっています。長期にわたる原発推進政策の裏から為政者とそれにくみする科学者の隠蔽体質が露呈してきました。私たちは、科学を志す臨床心理学が、教育の選別体制に寄与し、精神障害者収容政策に加担するという学問のあり方と社会体制に気づくところから学会改革を長年進めてきました。今まさに社会の危機にあって、心のケアは必要としても、危機に瀕する共同体の中で様々な人々と一緒にそのあり方を問わなければなりません。

個別発表は多様で、会員の関心領域の広さを表しています。震災関連企画は全体会にすべきところを、力が及ばず、支援体験報告から「心のケアとは何か」を探る分科会としました。同時間枠に研修委企画、自主企画、ポスターセッションが並びます。全体会シンポジウムでは、臨床心理学と宗教との関係性を探ります。両者ともに現代社会の危機の中でのあり方を問い、両者が学び合う可能性を探求します。今期運営委員会活動の中で、運営方法と意思疎通のあり方を巡って、運営委員間及び会員との間で様々な齟齬が生じ、学会運営の危機が自覚されています。ここから新たな発展へと転ずるべく、総会討論では問題提起、討論方法の示唆等を踏まえ、長時間が割かれます。プレセッションは別の会場で、本セッション並みの4題が企画されています。原発問題は社会の根底からの見直しを迫るものであるだけに、その関連企画を今回持てなかったことが残念です。多数の方々のご参加をお待ち致します。

- ・ 日 時：2011年10月29日（土）～30日（日）
- ・ 場 所：大阪市立大学 杉本キャンパス共通教育棟（大阪市住吉区杉本3-3-138）
- ・ 参加費：会員（4000円）、非会員（5000円）、学生/当事者/家族（2000円）、情報交換会（4000円）
 ※プレセッションが10月28日（金）金光教大阪センター（大阪府中央区久太郎町1-4-13）で開催されます。参加者には、その領収証と引き替えに同額を大会参加費から割り引きます。
 ※会員の紹介で会員と一緒に受付される非会員の方は、大会参加費が5000円→4000円となります（非会員のみ）

<当日プログラム>

	午 前	午 後	夜
10/29 (土)	9:00～ 受付開始 9:30～12:30 個別発表 A (812室)：中井孝章、野村一永、戸口太功耶 B (813室)：山本智子、吉田昭久、有留照周	13:30～17:00 全体会シンポジウム (811室) 「臨床心理学—宗教—社会、その関係性を探る」 ・渡辺 順一（金光教羽曳野教会） ・山口 洋典（浄土宗應典院） ・川島 堅二（恵泉女学園大学） ・佐藤和喜雄（NPO 福祉会菩提樹）	17:30 ～ 19:30 情報 交換会
10/30 (日)	8:30～ 受付開始 9:00～12:00 ポスターは10:00-12:30 ★研修委員会企画 (812室) 「障害者が地域で生活する」とは—今、「される側に学ぶ」「共に生きる」を問いなおす— ★震災関連企画 (813室) 東日本大震災と「こころのケア」 ★自主企画 (811室) ・滝野功久「オープン・スペース・テクノロジーは集団と組織の危機を創造的な変貌に転換しうるか？」 ★ポスターセッション (814室) ・實川 幹朗 「日臨心腐敗方程式」	12:30～13:10 定期事務総会 (811室) ・第19期運営委員会活動報告案 ・2010年度決算案、2011年度予算案 13:10～16:30 総会討論 (811室) 「今、学会で起こっている問題は何か？ 私たち日本臨床心理学会は何を目指すのか？」 発題者： ・實川 幹朗（姫路獨協大学） ・菅野 聖子（那珂市教育支援センター） ・栗原 毅（北沢保健福祉センター デイケア） ・滝野 功久（立命館大学）	
		16:30～17:30 運営委員改選 (811室)	

通常の問い合わせ先：日本臨床心理学会事務局

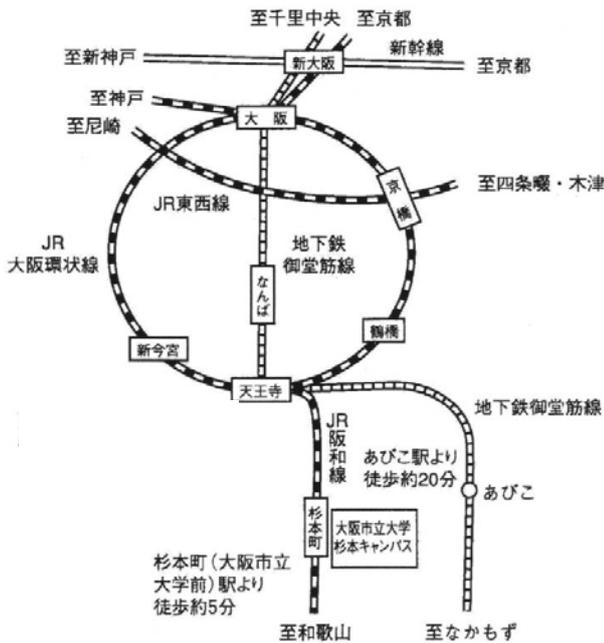
〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内

tel. 03-5307-1175 (月～金 10時～17時) fax. 03-5307-1196

E-mail nichirinshin@univcoop.or.jp

— 大会会場のご案内 —

■ 交通案内図



<交通案内>

- ・10月30日(日)には大阪マラソン2011(第一回)が行われます。
- ・大会会場での駐車場をご用意できませんので、お車での来場はご遠慮下さい。

【天王寺より電車を利用する場合】

- ①天王寺より JR 阪和線和歌山方面に乗り杉本町駅で下車。徒歩約5分。
- ②天王寺より地下鉄御堂筋線あびこ駅下車、③④番出口より南西へ徒歩約20分

【食事について】

会場にはレストランが、また会場周辺には数軒の飲食店とコンビニがあります。会場内での飲食は全面禁止となっておりますので、これらのお店をご利用下さい。ただし、会場内の815室(会員休憩室)及び816室(運営スタッフ控室)に限り飲食が許されますので、お弁当などはこの2室をお使いいただけます。

【宿泊について】

学会事務局では会場までの移動や宿泊先のあっせんはしておりませんので、各自でご予約下さい。なお、10月30日(日)は大阪マラソン2011(第一回)が予定されています。混雑が予想されますので、宿泊予約などは早めにされることをお勧めいたします。

【開催に支障のある不測の事態・自然災害について】

10月25日から大会終了日までは緊急時対応携帯電話(番号080-3894-1850)に問い合わせができます。番号開示の留守着信には後に返信いたします。但し月～金(10時～17時)は事務局宛てにお願いいたします。もしくは下記ホームページに変更事項などを掲載いたしますので、ご覧下さい。

日本臨床心理学会公式ホームページ: <http://nichirinshin.sakura.ne.jp/>

<第47回 日本臨床心理学会大会プログラム>

10月29日(土) 9:30 ~ 12:30 個別発表

共通教育棟【A.812室 B.813室】

A.812室

- ①世代間交流モデルの構築と実践の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 中井 孝章
- ②昨年の東京都青少年健全育成条例改正に見られるような恣意的なる
表現規制に対して学術的知見を示す必要性と、その内容についての問題提起・・・・・・ 野村 一永
- ③「セクシュアルマイノリティ」という言葉を捉えなおす
一性の多文化的人間理解としての西洋の中と外一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 戸口太功耶

B.813室

- ①ナラティブ研究において「対話する私」をどう記述するか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 山本 智子
- ②禅仏教における自我形成援助方略Ⅴ ―「坐禅」に期するもの―・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 吉田 昭久
- ③生まれながら所持している自己治癒力としての自己反省力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 有留 照周

10月29日(土) 13:30 ~ 17:00 全体会シンポジウム

共通教育棟【811室】

「臨床心理学—宗教—社会、その関係性を探る」

シンポジスト：渡辺 順一（金光教羽曳野教会、支縁のまちネットワーク）

「民衆宗教の『救い』の技法と宗教者の身体」

山口 洋典（浄土宗應典院、立命館大学）

「祈りと願いを結ぶ他者のまなざし～物理的距離と精神的距離のあいだで」

川島 堅二（恵泉女学園大学、日本基督教団）

「大学生が新宗教に入信する心理的理由と社会的背景について」

佐藤和喜雄（NPO 福祉会菩提樹、本シンポジウム企画者）

「一臨床心理職者が支えられている宗教的基盤」

司 会：宮脇 稔（大阪人間科学大学）

シンポジウム設定趣旨

人の心は、人間社会の中で傷つき・病み、人間社会の中で癒され・回復することを、人々は古くから知り、様々な営みをしてきた。そこには、宗教があり、現代でいう心理療法、芸術療法、作業療法等に当たるものがあった。中でも宗教は、人と人との関わりを超えた、命・自然そのものとの関わりを、人が「賜った」と感知し、洞察に導かれて成り立ってきたと言える。

近代以降、臨床心理学は科学的測定・評価法を重視して発展し、理論と技法を編み出す一方で、精神医学の薬物療法主導性と相まって、治療を求める人を対象化し、社会の支配秩序に組み込んでいく状況に関与してきた。

宗教は、人と人、人と神佛が通じ合う体験から、教義と形が備わると、それは個人や社会に大きな影響を与え、愛と平和の基盤を支える一方で戦争の火種ともなってきた。

第2次大戦後、政教分離原則のもとに、わが国では教育や精神保健福祉において、宗教的心性に触れることが敬遠されてきた。

しかし、科学技術の著しい発達の下で、地球環境と人間の絆の破壊に対する人間の制御力の限界がかつてなく自覚され始めている。このような社会の危機にあって、例えば貧困・差別状況における心の重荷や病について、また命や絆の喪失における人の関わりについて、臨床心理学も宗教も、従来避けてきた互いの領域について、もっと学びあう必要があるという考えから、この企画がなされた。

（企画者：佐藤和喜雄）

10月29日(土) 17:30 ~ 19:30 情報交換会

学術情報総合センター1階【ウイステリア】

※ 初めて参加される方も気軽にご参加下さい。参加費は4000円です。

10月30日(日) 9:00 ~ 12:00 研修委員会企画 共通教育棟【812室】

「障害者が地域で生活する」とは 一今、「される側に学ぶ」「共に生きる」を問いなおすー

発題者：亀口 公一（児童デイこころぼっくる）

：谷奥 克己（社福 インクルーシヴライフ協会 和音堂）

：北口 昌弘（大阪バリアフリーネットワーク）

司 会：菅野 聖子（那珂市教育支援センター）、高島 眞澄（社会福祉法人光風会）

日臨心が学会改革を経て、「される側に学ぶ」「共に生きる」を実践上の理念としてから約40年。現在、運営委員会の中で、「『する側ーされる側』という二項対立の概念は、時代状況に合っていないのではないか？」という議論が起っています。しかし、法律や制度を背景とした社会生活の中で、障害児・者の人権は保障され、地域で人として当たり前前に日常生活を送ることができているのでしょうか？当日は、学会において改革時、および改革後に「する側」「される側」という概念がどのように用いられてきたのかを確認します。その上で、障害を抱え地域で生活する北口さん、障害児・者に30年以上関わり続けている亀口さん、谷奥さんから実態を聞き、現状を確認します。

10月30日(日) 9:00 ~ 12:00 震災関連企画 共通教育棟【813室】

『東日本大震災と「こころのケア」』

企画者：藤本 豊（東京都立中部総合精神保健福祉センター）

厚生労働省が3月13日に東日本大震災の「こころのケアチーム」派遣打診を各都道府県に行い、その後被災地で「こころのケアチーム」が始動し始めました。しかし被災地では、「カウンセラーお断り」「こころのケアは結構」など、被災者と支援者で温度差が生じているとも聞きます。実際、被災地ではどのような「こころのケア」が行われているのでしょうか？

分科会当日は、実際に被災地で支援している方の支援体験をお聞きしながら、「こころのケアとは何か」を考えたいと思います。

10月30日(日) 9:00 ~ 12:00 自主企画 共通教育棟【811室】

「オープン・スペース・テクノロジーは集団と組織の危機を創造的な変貌に転換しうるか？」

企画者：滝野 功久（立命館大学大学院）

集団や組織は、従来とは違った新しい展開をする時には、必ず様々なドラマが生まれ、それは時に集団や組織の危機に発展する。その時に、それらを元に集団が学び成長して行くためには、集団の〈学び方〉自体を根本から考え直すことが必要である。その一つの糸口として、考え方と手法において、話し合いの原点を含んでいるオープン・スペース・テクノロジーと言われる方法を使って、話し合いの仕方とグループでの学び方を見直したい。

10月30日(日) 10:00 ~ 12:30 ポスターセッション 共通教育棟【814室】

「日臨心腐敗方程式」

企画者：實川 幹朗（姫路獨協大学）

日本臨床心理学会は、危機にあります。その大きな要因が、学会組織の疲労にあると思われます。これまでも言われてきた惰性・馴れ合い・公私混同などの関係を、方程式に整理しました。学会再生のため、会員の皆様とともに、明るく・厳しく検討いたしましょう。

10月30日(日) 12:30 ~ 13:10 定期事務総会 共通教育棟【811室】

- ・第19期運営委員会活動報告案
- ・2010年度決算案、2011年度予算案

10月30日(日) 13:10 ~ 16:30 運営委員会企画 総会討論 共通教育棟【811室】

「今、学会で起っている問題は何か？ 私たち日本臨床心理学会は何を目指すのか？」

實川 幹朗（姫路獨協大学）：

日臨心腐敗方程式・民主集中性批判

菅野 聖子（那珂市教育支援センター）：

学会の理念と運営体制・運営方法について

栗原 毅（北沢保健福祉センター デイケア）： 編集委員会での議論から

滝野 功久（立命館大学）：

集団と組織の危機を好機に！創造的変貌のための一つの工夫

司 会：谷奥 克己（社福 インクルーシヴライフ協会 和音堂）

10月30日(日) 16:30~17:30 運営委員改選 共通教育棟【811室】

第20期日本臨床心理学会運営委員選出